



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL <http://www.tonyamachi.com> E-mail info@tonyamachi.com 発行/2020年1月1日

東京オリンピック・パラリンピックの開催を祝います



八甲田山の樹氷 (撮影: 小田切 勇治)

あけましておめでとうございます。



理事長

西 秀 記

新天皇が誕生し令和元年となった今年の国内経済は、輸出の低迷を背景に製造業が伸び悩んだが、良好な雇用情勢と賃金上昇により個人消費が緩やかな回復を継続し、10月の消費税増税後も景気の腰折れにつながるほどの大きな消費の落ち込みはみられませんでした。しかし、米中貿易摩擦や日韓関係悪化など先行きが不透明な状況にあり、人手不足や原材料高などが招くコスト負担増も企業活動に悪影響を及ぼしています。

このような状況のもと昨年の問屋町は、「経済的価値創出事業」では、最優先課題であります団地内再整備において既存組合員の買増しが1件、2020年早々には跡地取得による新規加入が1社決定しております。また倉庫事業及び駐車場事業は堅調に推移し、稼働率9割を大きく超える良好な状態が続いております。そのほか新規事業として、組合員企業の人材確保支援を目的に、青森県流通団地連絡協議会を主体として合同企業説明会を青森市内3大学で初開催したほか、組合員のインターンシップ導入を支援するプロジェクトもスタートさせました。また、弁護士や社労士など専門家による無料相談コーナーも新設し、組合員サポートに努めました。

「社会的価値創出事業」では、組合員の皆様のご協力のもと「問屋町内交通死亡事故ゼロ8千日」を達成。また組合員従業員を対象に「問屋町100日ウォーキング」を初開催して108名が参加、運動習慣のきっかけづくりに一役買いました。

「文化的価値創出事業」では、花による景観美化向上を目指し「問屋町花いっぱいプロジェクト」を更に拡大。昨年に引き続きオリジナルデザインのフラワーボックス(木製プランターに花苗を植栽したもの)を問屋町大通りに100台設置したほか、新たに希望組合員50社に無料配付しました。

さて今年も、東京オリンピック・パラリンピック開幕という一大イベントが控えております。そのような中で問屋町では、卸団地建設から50年が経過し老朽化が顕著となっていることから、団地内インフラの現状を把握する調査事業を検討します。また深刻化する採用難に対処すべく、組合員の人材確保支援に積極的に取り組みます。そのほか、健康増進法の改正により2020年4月から事業所でも原則屋内禁煙が義務付けられることから、組合員の受動喫煙対策をサポートできるよう努めてまいります。

新しい年が近年増加している大きな自然災害に見舞われることなく、組合員各企業が更なる発展と飛躍することを心から祈念いたします。

問屋町ビジネススクール
2020年度カリキュラム承認
第7回理事会

12月18日(水)に第7回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、問屋町100日ウォーキングの結果や合同企業説明会の実施状況、同友会創立40周年記念講演会及び記念パーティーの開催について報告した。

主な案件審議は次のとおり
案件一：問屋町ビジネススクール運営委員会からの意見について
案件二：組合員跡地買取資金の借換について

忘年会で1年の締めくくり

青森問屋町経営同友会の今年最後の会員交流会が11月29日(金)に開催され、会員ほか27名が参加した。

今回は国内推薦が決定しており2021年の世界遺産登録を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、青森県世界文化遺産登録推進室の岡田室長を招き講話を実施した。その後、同会が3月から実施しているダイエットグランプリ2019のファイナル測定式が行われ、3名が目標体重への減量に成功した。

また12月5日(木)には問屋町支店長・所長連絡会が第28回会員交流会を開催し、会員ほか25名が参加した。懇親



同友会ダイエットグランプリ達成者

事業所の受動喫煙対策義務化についてなど学ぶ
組合員昼食会

12月5日(木)に問屋町会館1階会議室にて組合員昼食会が開催され、組合員ら52名が参加した。

はじめに、2020年4月から実施される事業所の受動喫煙対策義務化について、青森市健康づくり推進課健康寿命対策室の佐々木室長らが説明した。

佐々木室長は「健康増進法の改正により、飲食店や宿泊施設・事業所等は2020年4月1日から原則屋内禁煙が義務付けられ、喫煙する場合は喫煙専用室などの設置が必

会の前には青森県を中心に活動しているマジックショウのAMI氏によるマジックショーが開催され、参加者はマジックの巧みな技に魅了され成功するたびにどよめきと大きな拍手が贈られ、会場は大いに盛りあがった。

両交流会とも忘年会を兼ねて開催され、懇親会では会話

今年度2回目となる献血が、12月12日(木)の午前11時から午後1時まで行われた。今回は青森県赤十字センターの移動献血バスが問屋町

献血を通して社会貢献



青友会交流会でマジックショー

も弾み、賑やかにお互いの労をねぎらっていた。



移動献血バスで献血協力

先般の台風19号等の自然災害の影響もあり、医療機関では慢性的に血液が不足している。献血サポーターである組合でも、身近にできる社会貢献活動である献血への協力を積極的に呼びかけていきたい。

要となる」と話し、改正の趣旨や喫煙専用室などで必要となる煙の流出防止措置などについて説明した。
続いて青森県企画政策部企画調整課の山田氏がSDGs(持続可能な開発目標)について解説した。
SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは2015年の国連サミットで採択され、2030年までにすべての国・自治体・企業・団体など、あらゆる主体が関わって解決していくべき国際目標のこと。持続可能な世界を実現するための17のゴール(目標)と169のターゲットから構成される。山田氏はジャパンSDGsアワード授賞企業の取組み

「当社はおお客様にとってのオンリーワンを実現する。オーダーメイド型の冷熱専門メーカーで、冷熱技術を提供するだけでなく、お客様のブランド確立も構築サポートする」と説明。0度以下でも凍らない氷温域を利用した技術について「氷温技術は食品保存期間を延長でき高価格時期



組合員昼食会

の出荷を可能とする。また、氷温濃縮機は食品を加熱せず、氷温の温度帯を保ちながら真空を利用して短時間で水分を蒸発させ食品の味を一層濃厚にする。当社では今後も冷熱技術による様々な可能性を追求し、農水産業の高付加価値化に貢献していく」とPRした。

業務報告

主要事項

- 12月
 - 6日▽組合員昼食会
 - 10日▽第1回問屋町ビジネススクール運営委員会
 - 13日▽第7回フラワーアレンジメント教室
 - 17日▽金融審査会
 - 18日▽大星神社御幣立
 - 20日▽第9回理事会
- 問屋町
ビジネススクール：
 - 3日▽給与計算実務(年末調整編)①
 - 5日▽給与計算実務(年末調整編)②

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

青森問屋町配送(株)

代表取締役 西 秀記
常務取締役 赤坂 晃

北日本流通ヴァン(株)

代表取締役 西 秀記
取締役副社長 川崎 益美
専務取締役 藤本 和夫
常務取締役 森山 慶一

新年のメッセー

(協)青森総合卸センター事務局職員



専務理事
藤本 和夫

皆様あけましておめでとうござい
います。

個人的なことから申しますと、
昨年は十年振りに体重80kgの壁を
割ることができました。方法は秘
密です。今年は70kg前半を目指し
たいと思っています。

昨年ラグビーワールドカップで
あれだけの元気をもらいましたの
で、今年は東京オリンピック・パ
ラリンピックで是非とも日本を元
気にしてもらいたいと思っています。

景気も気が大事です。今年は元
気をもってポジティブに、色々な
ことにチャレンジしましょう。



理事・事務局長
赤坂 晃
青森問屋町配送係事務取締役

昨年はラクビーで盛り上がり、今年
はオリンピックで盛り上がりながら日
本各地へ御朱印の旅に出かけたい
と思います。

昨年は台風で甚大な被害が出て
しまいました。本年は自然災害
が少ない年になればと思っています。

組合員皆様の更なるご発展を心
からお祈りいたします。



業務部長
小田切 勇治

2020年東京オリンピックに出
場します！といっても選手では
なく聖火ランナーとして。運よく
青森県代表の一員に当選するこ
とができたので、一生に一度の記念
として全力でゆっくり走りたく
と思います。



業務課長
西田 一実

最近、作業をこなすことしかで
きておらず、消化不良な日々を過
ごしています。

今年公私ともに楽しみなこと
が目白押し。7月には当卸セン
ターニュースも記念の600号を
迎え、担当として愛される誌面を
目指し精進してまいります。



総務課長
成田 賀子

令和という新時代に突入し、時
代遅れにならぬよう携帯にペイを
導入し、ドラクエウォークにはま

りました。

今年家族でオリンピック観戦
へ行き、無農薬農園からの美味し
い漬物作りに精を出し、美意識を
鍛えます。



総務課長代理
五十嵐 敦

今年オリンピックイヤー。日
本中が一段と盛り上がりつつ元氣に
なることを願い、選手の皆さんの
応援に励みたいと思います。あ、
もちろん仕事も頑張ります。
今年もどうぞよろしくお願いい
たします。



業務部主事
春山 心仁

事務局職員唯一の喫煙者でした
が今年の4月から禁煙を継続して
おります。

残念ながら体重が増えつつある
ため、今年食事に気を付けて健
康的な1年にしたいと思います。



総務部主幹
田中 静香

昨年は、九州一人旅に100日
ウォーキング、某アプリとよく歩
いた1年でした。

今年目標として、「自身の体
調管理を万全に。皆様の健康管理
をお手伝い」と掲げ努めてまいり
たいと思いますので、どうぞよろ
しくお願いいたします。



総務部主査
鎌田 綾野

昨年は、3月にイチロー選手引
退前の試合を見に行けたかと思っ
たら、GW前日に人生初の胃腸炎
にかかり山あり谷ありな1年でし
た。

今年は大厄を迎えるので、きち
んと厄払いをして素敵な1年にし
ていきたいです。



総務部主事
鶴谷 優子

入社し早いもので丸5年経ちま
した。そのうち4年間が簡易郵便
局の担当でしたが、昨年7月に総
務へ配置換えになりました。初め
の仕事も多く大変ですが、いろ
いろなことにチャレンジしていき
たいと思います。



郵便局窓口担当
伊藤 舞

昨年の4月に入社いたしました
伊藤と申します。7月から簡易郵
便局の担当になり、覚えることが
多く大変ですが、ご迷惑をおかけ
しないように一生懸命頑張ります。

今年昨年よりも成長した姿を
お見せしたいと思っております。こ
れからもよろしく願っています。



問屋町ストアパート
成田 あすか

昨年は咽頭風邪を2回、右耳の

聴力異常と病気を患う機会もあつ
た反面、舞台やコンサート、美術
展等にも足を運ぶ機会も多く、い
ろんな意味で充実した1年でした。
今年遊びの方だけを充実させ
る1年にしたいと思います。



問屋町ストアパート
門間 由紀子

昨年はいろいろ充実した1年で
した。しかし、やり残したことも
あり今年少しづつ整理してい
きたいと思っています。

今年「早起き」「お弁当作り」
を目標にがんばって努力する1年
にしたいと思います。



青森問屋町配送係業務部長
佐藤 博善

昨年を振り返りますと、年号も
令和に代わりましたが、このごろ
1年が過ぎるのが早いです。(歳
のせいでしょうか)

近年、青森市が力を入れている
青森港へのクルーズ船の寄港数の
多さに驚いている所です。一度は
乗って、旅をしたいものです。
今年オリンピックもありま
すし、2020年(令和2年)が皆
様にとって良い年でありますよう
祈念いたします。



2020年 3つの価値創出でエリアの価値を高め、 ビジネスパークへ

3つの価値創出でビジネスパークを目指す

当組合は、組合創立50周年にあわせて策定した「50周年宣言」により、「経済的価値」「社会的価値」「文化的価値」の3つの価値創出事業のトライアングルで

卸団地のエリアマネジメントを行い、卸業の物流拠点を中核として、小売・サービス業や文化施設も備えた青森市の第二副都心ともなる「ビジネスパーク」を目指している。

「敷地に価値なし、エリアに価値あり」とは、岩手県紫波町のオガールプロジェクト岡崎正信氏の言葉だが、当組合も少子高齢化、働き方改革、SDGs、多様性のある社会の実現など様々な時代の流れ、組合員ニーズの変化に積極的に対応してエリアの価値を高めていく。「社会的価値」「文化的価値」



求人支援（インターンシップ体験会：上段、合同企業説明会：下段）

創出事業は、会社レベルだけではなく問屋町に勤めている従業員にも「見えやすい」事業が多い。わかりやすく組合加入メリットを体感してもらうことで、卸団地の一体感の醸成にもつながっていききたい。

**経済的価値創出事業
県内卸団地と連携し
人手不足に対応**

「経済的価値創出事業」とは、組合の存立基盤ともいえる高度化事業をはじめ、共同物流事業や共同駐車場事業、共同求人事業など収益に関連する事業をさし、団地資産の有効活用と管理を担う組合運営の土台となる事業である。

近年、企業の人手不足は全国的に深刻度を増している。青森県でも有効求人倍率が1倍を超えており、少子化や首都圏からの若手人材の引き合いが強まっ

ていることなどから人手不足感が高まっている。このような現状を受け、共同求人事業として県内の卸団地が集う青森県流通団地連絡協議会が中心となり、青森公立大学、青森中央学院大学、青森大学の3校と連携し、2019年春季と秋季に合同企業説明会を開催した。地元企業と大学生の接点が増えたことにより、実際に内定者が出ること

効果も表れてきている。2020年度も引き続き、企業の新規採用や若者の地元定着などへ向けて、合同企業説明会の開催やインターンシップ導入支援事業、企業と学生の交流会などを企画していく。

また、組合員施設の老朽化対策も急務となっており、ことから、長期20年の固定金利で中小企業の資金調達を支える高度化資金を積極的に周知し、組合員支援を行うとともに、卸団地全体のインフラについて現状を把握する調査事業を検討する。

**社会的価値創出事業
職域として健康づくりの
トップランナー目指して**

「社会的価値創出事業」とは、非収益事業の中でも環境事業や交通対策事業、安心・安全事業、近年注目を集めている健康事業など、企業の社会的責任に応えるために取り組むもので、共同化のメリットを享受しやすい事業である。

交通対策事業では、2019年9月22日に問屋町内交通死亡事故ゼロ8千日を達成することができた。1997年10月からスタートして約22年間、交通安全協会問屋町支部と組合、組合員が一致団結して活動した成果

が実を結んだ。次の9千日達成を目指して、街頭指導や運転記録証明を活用した無事故無違反コンクールなどを実施していく。

健康事業では、組合員従業員への運動不足の解消や運動習慣のきっかけづくりを促すため、新たに問屋町100日ウォーキングを実施。優勝チームは1日平均1万4千歩も歩き、10kg減量に成功するメンバーも出たなど、具体的な健康増進につながり好評を得た。2020年度もより多くの企業に健康事業への参加を促し、職域での健康づくりのトップランナーとなるべく活動を続けていく。

また、環境事業では、クリーンな問屋町を目指した合同清掃の実施、リサイクル率向上へ向けた資源分別の徹底、青森市と連携した道路除排雪の実施などに引き続き取り組んでいく。



街頭指導で安全運転を呼びかける

**文化的価値創出事業
組合員従業員と協力した
景観づくりへ**

「文化的価値創出事業」とは、景観事業や問屋町ビジネススクエア事業、各種の交流事業やクリエイション事業が対象で、人々の賑わいと多様な価値を持

つビジネスパークを色づける事業である。2005年度からスタートした景観事業は、これまでの地道な活動により組合員従業員にもその活動の輪が広がってきた。問屋町大通りへ設置した100台のフラワーボックスは、組合員従業員が水やりや補充することや秋まで花を咲かせ続け、無料配付したオリジナルデザインの木製プランターも綺麗に管理されていた。新年度も問屋町花いっぱいプロジェクトや緑のボランティア隊の活動を継続し、問屋町ならではの景観形成を目指す。

問屋町ビジネススクエアでは、ホームページのリニューアルを行い、デザインの一新やスマートフォンへの対応を実施した。新年度はこれらも活かしながら、中小企業大学校仙台校や21おもしろ産業総合支援センターとも連携し、より充実したカリキュラムの提供を行っていく。

また、組合員昼食会の定期開催や各種インフォメーションの実施などで、受動喫煙対策やAI等の最新情報をタイムリーに提供していく。



フラワーボックス（左：組合員、右：大通り）